

OECD Agricultural Outlook: 2004/2013

Summary in Japanese

OECD 農業アウトルック: 2004～2013年

日本語要約

OECD 加盟国・非加盟国の双方における広範にわたる所得増、緩やかな人口増、低いインフレ率は、一人当たり所得の上昇と消費の世界的な増大につながるものである。非加盟国における消費は、特にバター、チーズ、全乳粉等の乳製品や畜産物の分野で、OECD 諸国より急速に増大するものと見込まれる。こうした製品の消費増は人口の増加よりペースが速く、栄養不良や飢餓が軽減される可能性を見せている。

OECD 加盟国の成熟した市場では、所得が高く、食の基本的なニーズはかなり以前から十分に満たされており、家禽類の食肉、チーズ、全乳粉といった製品への嗜好のシフトに伴う緩やかな消費増しか見込めない。今回の予測対象期間中に非加盟国の増加率の方が高くなるということは、それらの国々で消費される農産物や飼料の割合が増えることを意味し、非加盟国での動物製品の動きが増大することを示している。

小麦、コメ、雑穀、牛肉、チーズ、植物油の世界生産高は、消費よりも速いペースで増大する。生産高の増加分の殆どは、特に生産面積の拡大率がそれほど高くない作物に関して予想される生産性の向上によるものであり、非加盟国に集中的に見られる。OECD 非加盟国での生産拡大は、OECD 加盟国全体での拡大率を上回る。その結果、世界の総生産高に占める OECD 加盟国の割合は低下する。特に低下の幅が大きいのはバターと脱脂乳粉で、低下の幅が小さいのは豚肉と全乳粉である。その他の製品についてはわずかな変化に留まる。

小麦と雑穀の世界貿易は緩やかに増加するが、コメについては大幅な増加が見込まれる。予測対象期間中には砂糖の貿易高も拡大し、主要輸出国であるブラジルの市場占有率が増加するものと予想される。乳製品の世界貿易が牛乳の生産高に占める割合は引き続き小さく、OECD加盟国が貿易の大半を担うが、予測対象期間中に大きく拡大することはないと見られる。この分野では、今後もOECD加盟国が世界貿易において支配的地位を占める。OECD加盟国から非加盟諸国への乳製品の純輸出高は、全乳粉以外の製品については減少が見込まれる。ただし、食肉貿易、特に家禽類の食肉の取引においては、OECD加盟国の優位は変わらない。

「アウトルック」で取り上げた殆どの製品の価格は、予測対象期間を通して名目では上昇するが、実質では引き続き下降傾向に向かうと見込まれる。

国内政策と貿易政策は、市場に影響し国内価格及び世界価格の統合と変動の度合いにも影響を及ぼすため、「アウトルック」の重要な要素となる。一部の産品については、こうした政策のために国内価格と世界価格との大きな格差が縮まらず、消費者に高いコスト負担を強いると共に、国際市場における供給状況の変化への国内市場の対応力を鈍らせる結果となっている。価格の格差が縮まらなければ、特に国境措置や関連する国内政策を是正することで、影響を受けやすい分野の自由化を進める必要があるだろう。WTOのドーハ開発アジェンダの一環として進行中の農業交渉において新たな進展があれば、この点に大きく寄与するものと思われる。

© OECD 2004

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語・フランス語で発行された OECD 出版物の抜粋を翻訳したものです。

OECD オンラインブックショップから無料で入手できます。

www.oecd.org/bookshop/

お問い合わせは OECD 広報局版權・翻訳部にお願いいたします。

rights@oecd.org

Fax: +33 (0)1 45 24 13 91

OECD Rights and Translation unit (PAC)
2 rue André-Pascal
75116 Paris
France

ウェブサイト www.oecd.org/rights/

